

令和5年度第2回稲沢市民病院経営強化プラン検討委員会 会議録概要

【日 時】 令和5年7月31日（月） 午後2時00分～2時50分

【場 所】 稲沢市民病院2階 講堂

【出席者】 渡邊 有三委員 春日井市民病院統括顧問
笠原 純一委員 稲沢市医師会長
栗木 雅洋委員 愛知県清須保健所長
家田 尚彦委員 稲沢市老人クラブ連合会長
牛嶋 みゆき委員 稲沢市連合婦人会長
日山 正裕委員 公募委員
浅野 隆夫委員 稲沢市総合政策部長
山口 竜三委員 稲沢市民病院長
住田 千鶴子委員 稲沢市民病院看護局長
石黒 憲治委員 稲沢市民病院事務局長
【事務局】 加藤 健司 稲沢市民病院事業管理者
砂川 良一 稲沢市民病院事務局管理課長
加藤 健児 稲沢市民病院事務局管理課主幹
櫛田 直柔 稲沢市民病院事務局管理課主査
加藤 政樹 稲沢市民病院事務局管理課主任

1. 議題

(1) 第1回委員会における意見に対する回答について

(事務局)

資料1「第1回委員会における意見に対する回答について」により説明。

(2) 稲沢市民病院経営強化プラン（案）について

(事務局)

「稲沢市民病院経営強化プラン（未定稿）」により説明

○「当院を取り巻く環境」

○「役割機能の最適化と連携の強化」

地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

・質疑等

(委員)

将来推計患者数について、表から一部抜粋してグラフにしているが、表とグラフの関係についてもう少し丁寧に精査する必要がある。例えば、将来推計患者数については認

知症が含まれる精神及び行動の疾患が増加すると見込まれるため、そのことを記載すべきと考える。

(委員)

役割機能の最適化と連携の強化について、取組項目の「①急性期医療」、「②回復期医療」については地域医療構想と地域包括ケアシステムの記載が混在しているように思われる。例えば、退院支援の充実は地域包括ケアシステムである。脳神経外科・整形外科を強みとして挙げるなら②回復期医療ではなく①急性期医療が望ましい。レスパイト入院も地域包括ケア病床における一部の機能に過ぎないなど、さらなる文章の整理が必要と考えられる。

(委員)

この経営強化プランはほぼ完成されていて、委員は語句や言葉の選び方を指摘するということになるのか。

(事務局)

完成しているものではない。院内でもまだ検討している段階で、委員から意見をいただいて、それを取り込みながらしっかりしたプランを策定したい。

(委員)

稲沢市民病院では患者アンケートを実施しているが、アンケートの意見は反映されているのだろうか。当院と競合病院とを比較した場合の強みは交通手段、駐車場の広さといふところであって、中身よりも行きやすさにあると思われる。そのような箇所の宣伝、訴求も必要だと考えられる。

当院は公立病院との特性として総合病院であらざるを得ないが、病院まつりや出前講座で強みをアピールして宣伝してほしい。患者の意見を取り入れる身近な病院であってほしい。

(委員)

意見のあった駐車場のことは当然のことと考える。地域包括ケア病床と急性期病床の記載は分けた方がいい。国の考えとして、急性期病床から地域包括ケア病床への院内転棟は望まれていない。急性期の治療が終了した一宮西病院や一宮市立市民病院からの転院に対して、地域包括ケア病床をどのように活用するかを検討する必要がある。地域包括ケア病床を持っているのだから、この部分をしっかり記載いただきたい。

(事務局)

次回日程調整

日程調整後、病院事業管理者挨拶

(管理者)

本プランの中核部分が、本日話したところと次回予定の連携の部分である。もっとたくさん意見をいただくと有難い。

当院は地域包括ケア病棟を持っており、急性期と回復期をどのようにやっていくかということも非常に大きな問題としてある。当院は一宮の大きい病院のように急性期ばかりをやるという病院ではなく、地域に根差した、市民の方が来やすい病院も必要かと思っているがそれだけでは経営的には苦しい。その辺りをしっかり決めて計画したいと思っているので、引き続きご意見を賜りたい。

2. 次回日程

日時：令和5年8月29日（火）午後2時～

場所：稲沢市民病院2階 講堂